

【訂正と補足】

訂正…③11耳↓身12異↓意

補足…⑥女人の過（存覚『女人往生聞書』↑法然『無量寿経釈』

『涅槃経』「諸有三千界男子諸煩惱合集爲一人女人之業障。」「女人大魔王能食一切人現世作纏縛後生爲怨敵」

『心地観経』「三世諸仏眼墮落於大地法界諸女人氷無成仏願。」

『優填王経』「女人最爲惡難」縛著牽人入罪門」

*『宝積経』「見於女人能失眼功德縱雖見大蛇不可見女人」（ひとたび女人をみればよ

くまなこの功德をうしなふ、たとひ大蛇をみるといふとも女人を見るべからずとなり）

『阿含経』「一見於女人氷結三途業何況於」犯定墮無間地獄」

『智度論』「清風無色猶可捉虻蛇含猶可觸、執劍向敵猶可勝女賊害人難可禁」

*『唯識論』「女人地獄使氷断仏種子外面似菩薩内心如夜叉」

『女人往生章』（慈泉洞空、延享元・一七四四年刊）

むかし大和の国たえまの郷に、一人の老女あり。此うたがひを春日明神に、いのりたてまつりければ、明神ひとりの老僧と化現したまひて、一夜の程に御長六尺の弥陀如来を作りて、老女にあたへたまへり。老女よろこびて、すなはち台座を作つて、安置し奉りけるに、その座ことくくだけだけにけり。老女不審はるけがたく、本尊の御前にこもり居て、ひとへに仏意をうかゞひければ、或夜の夢中に、本尊告てのたまひけるは、「汝女人往生の本願をうたがひて、春日明神にいのりしゆへ、明神老僧と化して、我が像をあらはし給へり。しかれば女人往生の義を表せんがため、八葉のさか蓮花を作りて、安置すべし」と云々。老女うちおどろきて、すなはち仏勅にまかせ、さかれんげを作りて、安置し奉りにしかば、その座つゝに成就せり。今の安養寺の本尊これなり。

抑、女人撰取の如來、さか蓮花にたちたまふ事は、ふかきことほり待るべし。惣じて諸仏蓮花をもて、座としたまふに、二のこゝろあり。一ツには、譬喩に約す。いはゆる蓮花の泌泥より生じて、そのためにけがされざるがごとし。諸仏濁世に出たまへども、煩惱のために、染せられざる事を表す。二には、当体に約す。いはゆる父母所生の肉団心は、かたち蓮花の開合するがごとしといへり。これすなはち、五蔵の中の心の蔵、色法の所撰にして、意識所依のところ、これ本来の仏座なり。此心蓮におゐて、みづから十界の性をそなへたり。中台には、地獄・仏界の二界の性をそなふ。阿鼻の依正は、またく極聖の自心に処すといへるこれなり。まわりの八葉はすなはち余の八界の所依なり。しかるに大日経の疏の中に、自心を觀じて、八葉のれんげとなせ。ぼんぶのこゝろは、かたちれんげのつぼみて、いまだひらかざるがごとし。筋脈ありて、これを約にして、以て八分となせり。

男子のは上にむかひ、女人のは下にむかふといへり。あはれなるかな、同じ人身をうくといへども、心蓮すでにかくのごとし。それくつがへれる器には、水入事あたはず。女人の心蓮、又これに同じ。何ぞ法水をたゆる事を得んや。